

第2章 まちかど博物館について

2-1 本研究における「ホスト」の位置づけ

和歌山県で行われた「南紀熊野体験博」(1999.4.29～9.19 開催)の中で行われた「リゾート体験イベント」において、イベント準備・運営、現場での参加者へのサポート・指導を行う立場にあった「体験リーダー」を研究対象とした説田の研究¹⁾の中で用いていた「ホスト」の位置づけを本研究でも用いることとする。

よって、本研究で位置づける「ホスト」を、まちづくりや新たな観光活動の試みの中で注目されている、地域資源や歴史文化をゲスト(来訪者)に伝える役割としての「ホスト」とする。

「ホスト」を役割形態で分類すると、パフォーマー(具現者)型とインタープリター(伝達者)型とに分かれる。パフォーマー型は、「伝える」内容を具現化してゲストに提示する役割を持つ。地域資源・文化の担い手として自らの生活や生業を“ありのまま”に見せる役割である。インタープリター型は、来訪者に解説する役割を持ち、地域資源・文化もしくは具現者の提示内容をゲストの理解しやすい形に租借し、伝える役割である。

さらに、伝達内容で分類すると、イベント型と日常型とに分かれる。イベント型は、ゲストがホストである地域住民と一時的にイベントという場面で接点を持ち、地域住民の生活の一部分だけが伝達される。この場合、地域住民は一時的にホスト意識を持つ。日常型は、イベント型よりもさらに積極的に地域住民の現地での生活そのままを伝えようとする。よって、伝達内容が一点に集中することなく、広い範囲の中で、ゲストは自身の興味関心に合わせた様々な情報を得ることができる。この場合、地域住民は日常的にホスト意識を持つ必要がある。

上記の「パフォーマー/インタープリター」と「イベント/日常」の2軸より、地域住民のホスト化を図2-1のように分類することができる。

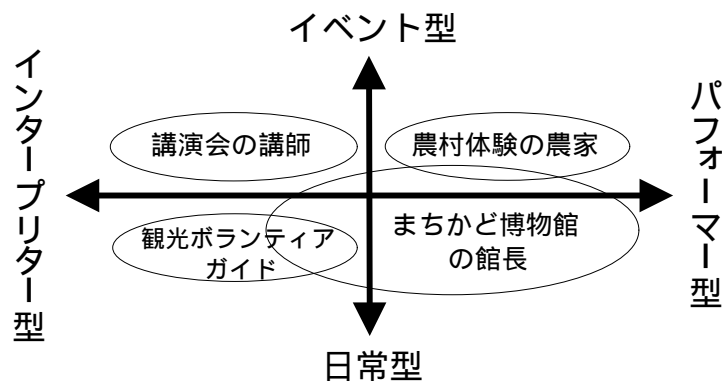


図 2-1 ホストの役割形態類型

2-2 まちかど博物館の事例

まちかど博物館とは、地域において市民が持っているコレクションや技術を仕事場や民家の一部を利用して展示することで、地域の中に小さな規模の博物館をいくつも設置し、それらをネットワークでつなぎ、地域全体でひとつの大きな博物館を作ろうとする取り組みである。そこでは、各博物館において「館長」というホスト役が地域住民に付与されている。

現在、この取り組みは全国に広まりつつあり、「まちかど博物館」及び「まるごと博物館」、「街角博物館」でネット検索をかけ、確認できたものだけで 50 以上の事例が存在する。全体的に「まちかど博物館」・「まるごと博物館」という呼称が多いが、「ミニ博物館」・「小さな博物館」・「エコミュージアム」と呼ばれる事例もある。本研究では、一般的に使われている「まちかど博物館」を総称とする。

近藤は「まちかど博物館（ミニ博物館事業）」を、「収集重視型」「交流重視型」「展示重視型」の 3 類型に分類している²⁾。表にその 3 類型を用いて現在取り組まれている事例を分類したものを示す。

「収集重視型」は、まち全体をひとつの博物館とみなし、市民とともに地域の魅力を再発見していこうとするものであり、市民参加やまちづくりの特性が強い。「交流重視型」は、職人や匠に光をあて、来館者との交流を通して、地場産業の活性化や産業振興、「職」への付加価値づけといった内的刺激と共に地域の魅力を高めようとするものである。「展示重視型」は、地域に埋もれている展示品を、各家庭や商店に分散して展示することで、まちの回遊性を高め、地域全体の魅力を高めようとするものである。その中でも、ホスト役の住民が重視されるのは、「交流重視型」である。展示内容を通じて館長と来館者との間に生まれるコミュニケーションが、まちかど博物館の醍醐味とされている。



図 2-2 「四宿彩々」まちかど博物館³⁾の様子

左：高宮ふれあい博物館（2004.11.07 撮影）

右：鳥居本みちくさ博物館（2003.11.13 撮影）

表 2-1 まちかど博物館の分類

名称	概要	主要な関連 分析・運動	全国の事例	所在地
a) 収集 重視 型	まち全体を博物館とみなして、市民とともに地域の魅力を再発見していこうとするもの。発見した成果を資料や書籍にする場合が多い。	市民参加 社会学習 文化活動	イーハトーブエコミュージアム	岩手県東和町
			朝日町エコミュージアム	山形県朝日町
			多摩川エコミュージアム	東京都川崎市
			松本まるごと博物館	長野県松本市
			太宰府市まるごと博物館	福岡県太宰府市
			四万十まるごと博物館	高知県
			筑後川まるごと博物館	福岡県久留米市
			三浦半島まるごと博物館	神奈川県横須賀市
			富山県まるごと博物館	富山県
			かつやま・まるごと博物館	福井県勝山市
			志木まるごと博物館 河童のつづら	埼玉県志木市
			川根地域まるごと博物館郷	静岡県川根町・中川根町 本川根町
b) 交流 重視 型	地域の職人や巧みに光を当て、来訪者との交流して、産業の活性化や振興、付加価値形成を知った内的刺激と共に地域の魅力を高めようとするもの。	産業育成 観光活性化	小さな博物館	東京都墨田区
			伊勢まちかど博物館	三重県伊勢市
			阿波こくふ街角博物館	徳島県国府町
			奈良まちかど博物館	奈良県奈良市
			阪南市まちかど博物館	大阪府阪南市
			三重県まちかど博物館事業	三重県全域
			たくみの里づくり事業	群馬県みなかみ町
c) 展示 重視 型	地域に埋もれている展示品を、各家庭や商店に分散して展示することで、まちの回遊性を高め、地域全体の魅力を高めようとするもの。	観光事業 文化事業 町並み保存	昭和ミニ資料館	山形県高畠町
			小田原街かど博物館	神奈川県小田原市
			白石まちかど博物館	宮城県白石市
			みなとまるごと博物館	静岡県清水市
			まるごと博物館	滋賀県五箇荘町
			平野町ぐるみ博物館	大阪府大阪市
			津山まるごと博物館	岡山県津山市
			吉備綾南まちかど博物館	岡山県岡山市
			青葉通まちかど博物館	宮城県仙台市
			商店街まるごと博物館	三重県伊勢市
			草野まちかど博物館	福岡県久留米市
			「四宿彩々」まちかど博物館事業	滋賀県彦根市・豊郷町 愛知川町

主催団体には、東京都墨田区「小さな博物館」のような行政の一部署が担当するタイプ、神奈川県小田原市「小田原街かど博物館」のような半官半民の協議会タイプ、徳島県国府町「阿波こくふ街角博物館」や大阪府大阪市「平野町ぐるみ博物館」のような純粋な市民活動タイプがある。また、展開地域の範囲には、埼玉県志木市「志木まるごと博物館」のような流域タイプや、宮城県仙台市「白石まちかど博物館」のような商店街タイプなどがある。自治体単位で展開している場合が多いが、地区レベルのものもある。

2-3 既往研究

2-3-1 まちかど博物館に関する研究

まちかど博物館の可能性についての今村らの研究⁴⁾よれば、まちかど博物館には3つの可能性「地域資源の保全・保存」・「学習の場」・「観光振興」があるとされている。地域資源や伝統技術が再評価され、後世に伝えていく努力を促す。このことが、地域住民のまちへの愛着度を上昇させているのかもしれない。また、総合学習、生涯学習の必要性が言われる昨今、よき教材となり、環境教育や社会教育に活かせる。比較的最近に開設された事例によく見られるのは、観光ニーズの多様化、団体旅行から個人旅行へと観光スタイルの変化に伴い、観光振興としても期待しているという点である。このような可能性が見られる一方で、既存の産業の振興・活性化に対しては効果があげられていない。

最近では、まちかど博物館に関心を持つ自治体を対象に、事業化の手順を明確にした研究⁵⁾や、事業化する上での留意点や事業化による影響について述べた研究⁶⁾⁷⁾もある。

しかし、図2-6に示すように、まちかど博物館を開設し、軌道に乗せるまでの手順は整理されていても、継続的な運営をする上で考慮されるべき「館長」役の住民の負担や意識の変化、「館長」をサポートする体制など、個々の博物館の開設後の実態については、近藤の研究⁷⁾で館長意識の形成過程を扱っているだけである。

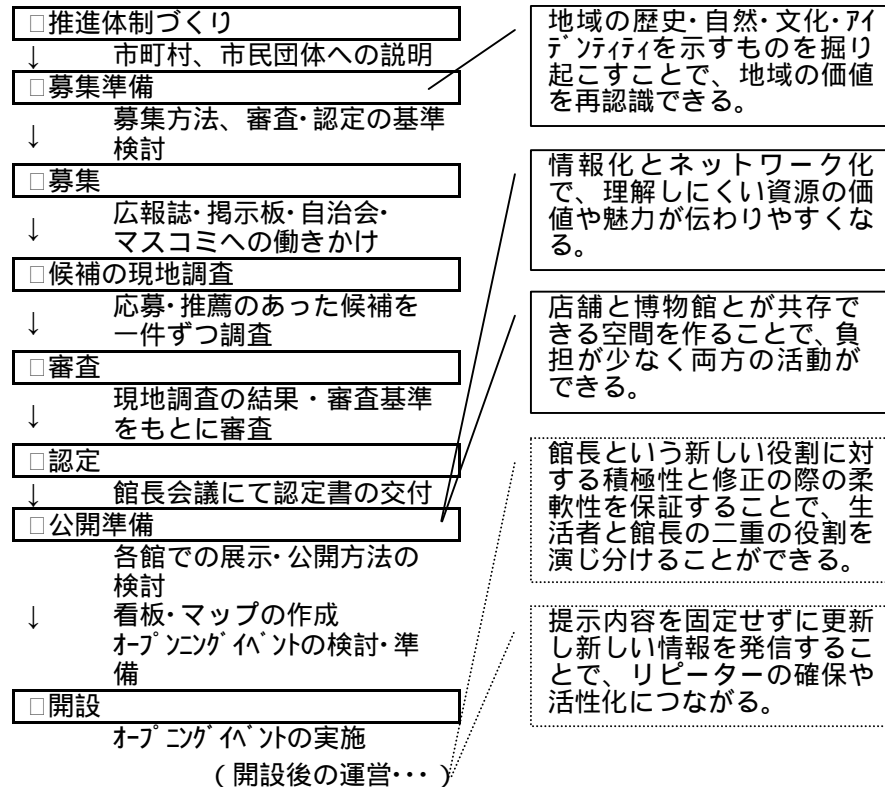


図 2-3 まちかど博物館の事業化の流れと留意点

2-3-2 まちづくり活動の継続性に関する研究

堤町まちかど博物館・堤焼佐大ギャラリーを事例とした田代らの研究⁹⁾では、「堤焼という観光資源の存在を知り、それまで知らなかった人たちが改めて自らが住むまちの魅力に気づき、自信と愛着を持つようになった。ギャラリーに集るいろいろな人がそれぞれの得意分野でまちに関わりを見出すことができ、一時的なものではなく、地域の人の手によって持続していく。」と、まちづくり活動に関わった人たちの連鎖と変化について報告されている。

棚田オーナー制度の継続性について山本らが行っている研究¹⁰⁾¹¹⁾では、棚田のオーナー、棚田地区周辺の住民、棚田オーナー制度を支える地元農家の支援者、それぞれの意向から継続への課題について検討している。棚田オーナー制度をめぐっては、過大な労力と費用がかかる上に、管理者の後継者がいないという問題が生じ、継続性が課題となっている。地権者には、棚田の貸し出しや活動への協力は得られるものの、体力的にも限界があり、長期的な活動支援は厳しいと考えられる。そこで注目されているのが地元支援者である。

まず、オーナーの継続的な確保のためには、メディア等を活用して活動内容の紹介やイベント内容の充実を図り、オーナー応募者を確保する必要がある。また、オーナーの活動継続性確保のために、より地元住民との交流機会を設けることが最も効果的であると考えられる。

地元農家の支援者の継続的な確保のためには、支援者がその活動へ参加して達成感や満足感といった精神的な効果が生まれるように、オーナーとの交流を図り、棚田の範囲を拡大など提案していくことが望まれる、としている。

管理者や後継者のいない棚田を保全するために始まった棚田オーナー制度ではあったが、棚田オーナー制度を支える側の限界という新しい課題を抱えることになった。さらに、今後高齢化が進み支援者がいなくなることも考慮し、現在の支援者に代わる新規営農者の確保を意識した取り組みも行う必要がある。

第2章 脚注及び引用、参考文献

- 1) 説田寿：「ホスト」の成長過程とサポートシステムに関する研究 - 「南紀熊野体験博」体験リーダーを対象として - ,滋賀県立大学環境科学研究科修士論文(2001)
- 2) 盛岡通：環境をまもり育てる技術,株式会社ぎょうせい,351-359(1994)
- 3) 中山道の宿場町である愛知川、高宮、鳥居本で開催したまちかど博物館。滋賀県立大学環境科学部フィールドワーク の授業の一環で行われた。
- 4) 今村洋一,北澤猛：まちかど博物館ネットワークの可能性,日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸),349-350(2002)
- 5) 今村洋一,他：ミニ博物館ネットワークの事業化について,日本建築学会大会学術講演梗概集(東海),893-894(2003)

- 6) 今谷大志：店舗側と訪問者側への影響と要因に街かど博物館の特徴と課題-小田原市の街かど博物館事業を課題とした店舗性と博物館性からの考察-都市計画, < http://machine.net/daigaku/2003_imatani.pdf > 2005-9-20
- 7) 前田博：余暇に留意した生活環境整備, 都市計画,(183),32-36(1993)
- 8) 近藤隆二郎,盛岡通：ミニ博物館事業における「館長」意識の形成過程に関する研究-墨田区「小さな博物館」と伊勢市「まちかど博物館」 -, 日本都市計画学会学術研究論文集,703-708(1994)
- 9) 田代久美,他：地域における連続的なまち学習のしくみづくりに関する実践的研究 - 「堤町まちかど博物館・堤焼佐大ギャラリー」を事例として -, 「住まい・まち学習」実践報告・論文集,(4),53-58(2003)
- 10) 山本若菜,他：オーナー応募者の行動からみた棚田オーナー制度の継続性 - 鴨川市大山千枚田を事例に-,農村計画論文集,3,199-204(2001)
- 11) 山本若菜,他：棚田オーナー制度における地元農家の作業支援の継続性 - 鴨川市大山地区を事例に-,農村計画学会誌,22(2),112-121(2003)